

技術・家庭科(家庭分野)公開授業

授業者 安中市立第二中学校 土屋 真美 教諭



◆11月26日(火) 第5校時

◆1年6組(30名)

・県内の小中学校の先生方や群馬大学の学生さん等、70名を超える方が授業を参観しました！

※「学習指導案」「本題材の評価問題」を、P4～掲載しています。

【題材名】自分らしく快適な衣生活のために

【本時のねらい】まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせ、まつり縫いによる裾上げの方法を身に付けさせる。

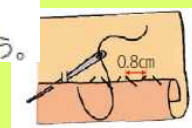
【伸ばしたい(身に付けさせたい)資質・能力】

- ・手縫いの基礎(玉結び、玉どめ、なみ縫い)
- ・まつり縫いの特徴(表に目立たない縫い方)や縫い方の理解
- ・まつり縫いによる裾上げを「まつり縫いのポイント」を意識しながら行うこと
- ・まつり縫いを身に付けるためのコツを見いだす力

<参考>「はばたく群馬の指導プラン」P56

◆まつり縫いによる裾上げができる。

- ・表に、針目、玉結び・玉どめが目立たないように、布と同色の糸を用い、1本取りで縫う。
- ・0.8cm程度の間隔で真っ直ぐに縫う。



授業の様子 ①

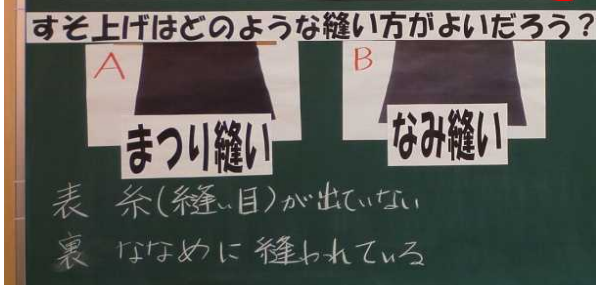
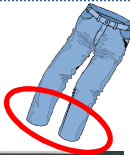


1. 運針練習をする。



・授業のはじめになみ縫いの運針練習を行い、ウォーミングアップしました。

2. ズボンの裾を観察し、なみ縫いと比べることでまつり縫いの特徴を見つける。



【めあて】

「まつり縫い」のポイントを理解して、衣服の裾上げに挑戦し、コツをつかもう。

3. まつり縫いによる裾上げに取り組む。



・見本を観察し、まつり縫いのやり方を考えました。

開いてみると、「V」みたいになっているね。それに表の方は、ちょっとしか縫っていないよ。

なみ縫いは5mmで縫ったけど、まつり縫いはどれくらいの間隔がいいかな？



「まつり縫いのポイント」

- ・表に針目が目立たないように縫う。
- ・0.8cm程度の間かくで縫う。
- ・玉結び、玉どめを目立たない場所にする。

・「まつり縫いのポイント」を確認した後、縫い方の説明を聞きました。



まず、先生がやっているのをじっくり観察します。

次に、先生の2回目の説明と一緒にやってみます。



・一人一人がまつり縫いに挑戦しました。

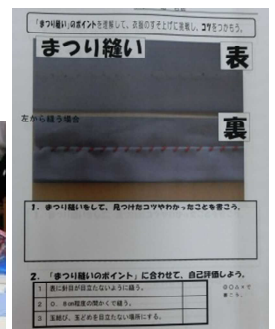


やり方が分からなくなったら、タブレットで確認します。



ゲストティーチャーの方にも教えていただきました。

4. コツ(気付いたこと)をまとめる。



授業の様子 ②



5. コツ(気付いたこと)を発表する。

糸を1本すくうようにして…すくえたら、次の動作をいっしょにやるようにするとよかったです。



まつり縫いのコツ

- ・ 糸を1本すくうと効率がよい
- ・ 針をななめに置く。
- ・ 糸を1本しかすくわない。

・ 最後にもう一度まつり縫いを行い、友達のコツを試しました。



6. まとめと予告を聞く。

に縫う。
0.8cm程度の間かくで縫う。
玉結び、玉どめを目立たない場所にする。



1時間でだいぶ上手になりましたね。次の時間の運針練習は、まつり縫いでやってみましょうね。

【授業研究会での意見】

<よかった点>

- ・ ゲストティーチャーの活用やタブレットPCの準備など個に応じた支援につながる有効な手だてが多く見られた。
- ・ コツを発表することによって、気づきを共有することができた。その後、個々でもう一度行うことが習得につながっていた。



<改善点>

- ・ ゲストティーチャーとの打ち合わせを十分に**行い、生徒への支援の方法等**について共通理解ができるとよい。
- ・ まつり縫いのポイントでは、折り山のすくい方などを含め提示の仕方を工夫してもよい。
- ・ 基本的な縫い方や布の扱い方など、常時指導や家庭との連携を図りながら定着させたい。



【参加者の声】(アンケートより)

- ・ “活用のための習得”ということで、子どもたちに考えさせる授業を行うことは、とても大切なことであると実感しました。
- ・ 考える時間と技能習得の時間をよく計画し、やはり一人一人がよく考えられるような工夫をしていきたい。
- ・ ゲストティーチャーを活用する有効性と、来ていただく場合の注意点もよく分かった。ICTの活用は、技能教科にとっても有効であると思い、今後もっと工夫して活用したい。

【授業者の感想】

- ・ 今回の授業づくりや本日の先生方のご意見を通して、縫うということの奥深さを改めて感じている。
- ・ 今後もゲストティーチャーの活用を含め、授業改善に取り組んでいきたい。



提案授業について

(家庭)

本時のねらい

まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせ、まつり縫いによる裾上げの方法を身に付けさせる。



伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力		学習活動
知	・手縫いの基礎（玉結び、玉どめ、なみ縫い） ・まつり縫いの特徴（表に目立たない縫い方）や縫い方の理解	・運針練習を行う。 ・まつり縫いの特徴や縫い方を考える。 ・「まつり縫いのポイント」を意識して、まつり縫いを行う。
技	・まつり縫いによる裾上げを「まつり縫いのポイント」を意識しながら行うこと	
力	・まつり縫いを身に付けるためにコツを見いだす力	

<提案する手立て>

* 一人一人の技能習得のための授業づくり

①まつり縫いの特徴やコツを考える活動の工夫

- ・なみ縫いと比較する活動を設定し、まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせた上で、「まつり縫いのポイント」を提示する。
- ・各自が気付いた縫い方のコツを共有する。
- ・共有した縫い方のコツを各自が試す場を設定する。
（指導プランP 5 6 「衣服の状態に応じた適切な補修ができる」）

②一人一人の技能の差に応じた支援の工夫

- ・実物見本や、実物大のカラーコピーした見本を準備し、作業の見通しがもてるようにする。
- ・グループごとにタブレット PC を準備し、まつり縫いの示範を確認できるようにし、自力解決につなげる。
- ・地域の方にゲストティーチャーを依頼し、自力解決の困難な生徒の支援を行う。
（指導プランP 1 1 1 「一人一人の技能習得のために」）

<協議の視点>

- ①伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力について
- ②提案する手立てについて

技術・家庭科学学習指導案

平成25年11月26日（火曜日）第5校時（13:35～14:25）被服室1年6組 指導者 土屋 真美

1 題材名 「自分らしく快適な衣生活のために」

2 考 察

(1) 題材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

- ・ C衣生活・住生活と自立 (1) 衣服の選択と手入れ
ア「衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること」
イ「衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること」
ウ「衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること」
- (・ D身近な消費生活と環境 (1)家庭生活と消費 (2) 家庭生活と環境)

<②題材の価値及び生活との関わり>

- ・ 快適な衣生活を営むためには、衣服の適切な選択と、材料や状態に応じた手入れができることが必要となる。家庭における衣生活では、安価で手軽に購入できる現状から、安易に購入や廃棄をしてしまったり、手入れを外部のサービスに依存したりする傾向がある。衣服の働きを理解させ、各自の衣生活を見つめながら選択や手入れについて学習することは、各自の衣生活の自立につながるだけでなく、賢い消費者としての自覚につなげることができる題材である。

<③伸ばしたい資質・能力>

- ・ 衣服の機能の理解
- ・ 衣服を選択する際の観点と表示の見方
- ・ 材料や状態に応じた衣服の手入れの仕方
- ・ 環境や資源に配慮した衣生活を工夫する力

<④そのために必要な指導・活動>

- ・ 小学校での学習を想起したり、具体的な場面に合った服装を考えたりすることで、着る目的を考える。
- ・ デザインや色の異なる T シャツをから、表示、品質、好みなどを考慮して選ぶ活動を行う。
- ・ 手入れの必要性を理解した上で、洗濯、まつり縫い、スナップ付け、ほころび直しを行う。
- ・ 各自の衣生活を見つめ、環境に配慮した視点から改善策を考える。

<⑤今後の学習への活用>

- ・ まつり縫いやスナップ付けの技能を活用して、ティッシュボックスカバーを製作する学習

(2) 生徒の実態(男子16名、女子14名、計30名)

<既習の学習内容>

- ・ 小学校において、衣服の働きと快適な着方の工夫、日常着の手入れとボタン付け及び洗濯、生活に役立つ物の製作を通じた手縫いやミシン縫いを学習してきている。

<本題材に関わる生活経験>

- ・ 衣服の購入場面で、自分の好みを生かして選択している生徒は多いが、表示や品質までは考慮できていない。手入れにおいては、既習事項である手洗いやボタン付けの技術を活用している生徒は少なく、家族に依存している傾向がある。また、環境に配慮した生活を工夫しようという意識はあるものの、衣生活においてどのように具体化できるのか結び付いていない。

<本題材に関わる実態及び指導方針>

- ・ 学校生活を制服や体操着で送っている生徒たちも、各自の個性を生かすことができる私服に対する興味・関心は高いが、既製服を購入する際の様々な観点や、目的に合った着方を考えるところまでは至っていない。衣服を選ぶ際の観点や着こなしが与える印象などに気付くことができるような実践的・体験的な活動を設定し、実感を伴った理解につなげていきたい。
- ・ 購入した衣服の手入れについては、その必要性には気付いているものの、それを自分で行おうとする意欲や技能が不足している生徒が多い。手入れの必要性だけでなく、環境に配慮した生活の視点にも触れながら、学習を進めていく必要がある。
- ・ 事前に行った手縫いの実技調査では、玉結びや玉どめ、なみ縫いの仕方など基本的な技能に課題がある生徒がいることが分かった。また、これまでの製作実習では、時間的な制約があったり、一人の教師が全体を指導したりしていたため、技能に差のある学級では支援が十分にできず、習得の状況に差ができていた。生徒一人一人に応じた指導体制と教材・教具を工夫する必要がある。

3 題材の目標

衣服の役割や選択について話し合ったり、衣服の手入れを実習したりする学習を通して、衣服の機能や着用、手入れについての知識や技術を習得し、日常生活で生かそうとする態度を養う。

4 指導と評価の計画(11時間予定)

評 価 規 準	家庭生活への 関心・意欲・態度	衣服の着用、選択、手入れに関心をもち、衣生活をよりよくしようとしている。							
	生活を 工夫し創造する能力	目的に合わせた衣服の選び方を考えたり、材料や状態に応じた手入れを工夫したりしている。							
	生活の技能	衣服を選択するための情報の収集・整理、材料や目的に応じた洗濯、布地に適した補修をすることができる。							
	家庭生活についての 知識・理解	衣服の機能や既製服の表示、洗濯や補修の仕方について理解している。							
過 程	時	伸ばしたい(身に付けさせたい) 資質・能力		主な学習活動	関	工	技	知	
		知識・技能等	思考力・表現力等						
見 つ め る ・ つ か む	0.5	・衣生活に関わる仕事 内容の理解	・衣生活に関わる仕事 について、整理する 力 ・衣生活における課題 を見いだす力	○家庭における衣生活の取組 （「どんな仕事を」「誰が」） を見つめる。 ○家庭での衣生活への取組の 様子を基に話し合い、題材 の課題をつかむ。	○				
		【課題】快適な衣生活を送るために、必要なことができるようにしよう。							
追 究 す る	0.5	・衣服の機能の理解	・目的に応じた着用を 考える力	○衣服の社会生活上の機能に ついて知り、目的に応じた 衣服の着方について考える。	○			○	
	2		・個性を生かしたコー ディネートについて よりよい方法を見つ ける力	○目的に合わせた衣服を選び、 自分らしい着方を工夫する。 ○浴衣の着付けを体験する。	○	○			
	2	・表示の見方と選択の ポイントの理解 ・必要な情報を整理す る技能	・情報を整理して考え る力	○既製服の購入場面を想定し、 購入する際に必要なことを 考える。				○	○
	2	・表示の見方、洗剤の 種類と働きの理解 ・洗濯機の使い方		○衣服素材に適した手入れの 必要性を理解する。 ○取扱い絵表示を参考にして 洗濯機を使った洗濯の仕方 を考える。				○	○
	3 本 時 1/3	・手縫いやミシン縫い の基礎的な技能 ・まつり縫いなどの補 修の技能	・材料に合わせたより よい方法を見いだす 力	○衣服の状態に合わせた方法 で補修ができる。 「まつり縫い」【本時】 「スナップつけ」 「ほころび直し」				○	
ま と め る ・	1		・生活と結び付けて課 題を見いだす力	○環境に配慮した衣生活につ いて関心をもち、実生活で きることを考える。	○	○			

生 か す	家 庭	・自分なりに工夫しながら実践する力	○各自の生活の中で学習したことを実践する。				
-------------	--------	-------------------	-----------------------	--	--	--	--

<手入れの学習場面において（第6～10時）>
 ○手縫いの技能の定着を図るために、針と糸を使った基礎的な技能について、短時間の運針練習を授業の導入で取り入れる。（「糸通し」「玉結び」「玉どめ」「なみ縫い」など）

6 本時の展開






(1)ねらい まつり縫いの特徴や縫い方を考えさせ、まつり縫いによる裾上げの方法を身に付けさせる。

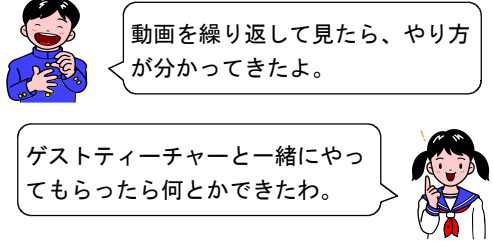
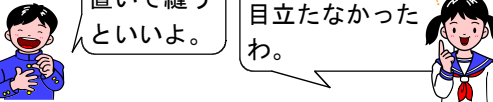
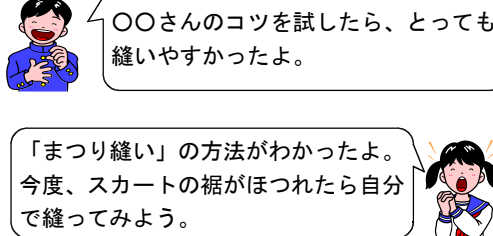
(2)準備

教師：まつり縫いとなみ縫いですそ上げた制服のズボン、実物投影機、プロジェクタ
 縫い方の示範映像（タブレットPC）、ワークシート

生徒：裁縫用具

(3)展開

生徒の活動(時間)	時間	指導・支援及び留意点・評価
1 本時の課題をつかむ。 ・運針の練習をする。 ・ズボンの裾を観察し、「まつり縫い」の特徴を見付ける。  <p>なみ縫いと全く違うね。表から見ると、縫ってあるのがよく分からないくらいだよ。</p> <p>「まつり縫い」のポイントを理解して、衣服のすそ上げに挑戦し、コツをつかもう。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめに運針の練習を設定し、小学校の既習事項を定着させるようにする。 練習布にはチェックの柄を用い、柄の幅を目安とできるようにする。 裾のほつれたスカートを提示し、補修（裾上げ）の方法について学習することを知らせる。 実際にまつり縫いが使われる部分（ズボンの裾）を観察することで、「まつり縫い」の特徴を捉えられるようにする。 まつり縫いの特徴である「表に目立たない」に気付けるように、なみ縫いで裾上げしたものと比較できるようにする。
2 まつり縫いによる裾上げ取り組む。 ・まつり縫いの方法を考える。  <p>折ってある所とそうじゃない所を順番に縫っている。</p> <p>だから糸が斜めになっているのかな。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 縫い方の説明を聞き、一緒にやってみる。 ①示範をよく観察する。  <p>まつり縫いって難しそう。</p> ②示範と一緒に針を動かしてみる。  <p>何となくできそうな気がしてきたわ。</p> 「まつり縫いのポイント」を意識して各自がまつり縫いに取り組む。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> なみ縫いと比較して縫い方を考えさせることで、縫い方のイメージをもたせるようにする。 ある程度丈夫に縫うための縫い目の大きさについて投げかけ「まつり縫いのポイント」につなげる。 ＊表に針目、玉結び・玉どめが目立たないようにする。 ＊0.8cm程度の間隔で縫う。 表に針目が目立たないために、布と同色の糸で一本取りで縫われていることにも触れるようにする。 示範は次の点に留意しながら、2度行う。 ①ポイントを解説しながらゆっくりと行う。 ②少しずつ区切り生徒の様子を確認しながら行う。 ②の示範の際には、ゲストティーチャーが状況に応じて支援できるように打ち合わせておく。 生徒が自力解決できるよう、次のものを用意しておく。 ＊「まつり縫いのポイント」にそった見本 ＊示範の動画が見られるタブレットPC

 <p>動画を繰り返して見たら、やり方が分かってきたよ。</p> <p>ゲストティーチャーと一緒にやってもらったら何とかできたわ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左利きの生徒には、左手で縫った見本を準備しておく。 ・ゲストティーチャーには、自力解決できない生徒を中心に支援するように伝えておく。 ・生徒の様子を観察し、やり方の分からない生徒や作業の遅れている生徒をチェックし、指導に生かせるようにする。
<p>3 ワークシートに気付いたことを記入する。</p>  <p>糸を目印に置いて縫うといいよ。</p> <p>布を軽くすくうようにすると、表に目立たなかったわ。</p>	<p>5 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってみて見付けたことや、ゲストティーチャーのアドバイスから気付いたことを記入するようにする。 ・教師やゲストティーチャーからできるようになったことを個々に伝え、自信がもてるようにする。
<p>4 各自が気付いたことを全体で発表する。</p>  <p>〇〇さんのコツを試したら、とっても縫いやすかったよ。</p> <p>「まつり縫い」の方法がわかったよ。今度、スカートの裾がほつれたら自分で縫ってみよう。</p>	<p>8 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有したコツをそれぞれ試してみる時間を設定し、まつり縫いの定着につなげるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>表に目立たないようにしながら、0.8cm程度の縫い目でまつり縫いができる。 (観察、練習布)【生活の技能】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見本と比較しながら学習カードの項目にそって「まつり縫い」を振り返り、自己評価をする。 ・この後、補修の技術を活用した生活に役立つものを作ることを知らせ、意欲をもてるようにする。
<p>5 次の時間は、スナップの付け方を学習することを知らせる。</p>	<p>2 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の運針練習は、まつり縫いで行うことを知らせる。 ・制服に付いているスナップをよく観察してくるよう伝える。

板書計画

「まつり縫い」のポイントを理解して、衣服のすそ上げに挑戦し、コツをつかもう。

裾上げはどのような縫い方がよいだろう？

なみ縫い見本

なみ縫い

まつり縫い見本

まつり縫い

↓

- ・表に糸が見えない
- ・裏はななめになっている

まつり縫いのポイント

- ・(0.8)cm程度の間かくで縫う。
- ・表に針目が目立たないように縫う。
- ・玉結び、玉どめを目立たない場所にする。

まつり縫いのコツ

- ・見本をよく見る
- ・表の布は、軽くすくうようにする (糸1本分)
- ・一針一針でいねいに糸を引いておく

まつり縫い写真(裏)

まつり縫い写真(表)

「まつり縫い」のポイントを理解して、衣服のすそ上げに挑戦し、コツをつかもう。

まつり縫い

表

裏

1. まつり縫いをして、見つけたコツやわかったことを書こう。

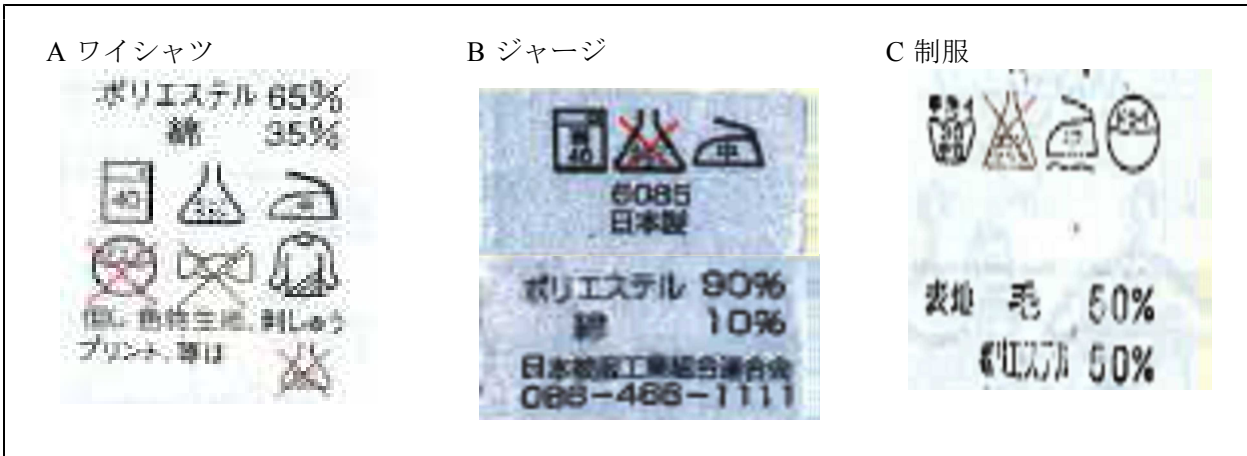
2. 「まつり縫いのポイント」に合わせて、自己評価しよう。

1	表に針目が目立たないように縫う。	
2	0.8cm程度の間かくで縫う。	
3	玉結び、玉どめを目立たない場所にする。	

◎○△×で
書こう。

【参考】家庭分野 評価シート

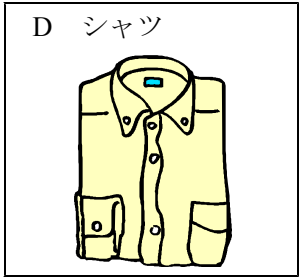
1 次の表示は、太郎さんが学校生活で着用している衣服についての表示である。このことについて、後の問いに答えなさい。



(1) A～Cに共通した衣服の社会生活上の働きを書きなさい。

(2) 太郎さんが普段着ているDのシャツは、綿100%である。Aのワイシャツと一緒に洗って干した場合、どのような違いが表れるか。次の書き出しに続けて書きなさい。

Dのシャツは、()



(3) Aのワイシャツの干し方を、言葉と図で説明しなさい。

(4) 太郎さんは、Cのズボンのすそがほつれたので、補修をしようとしている。手縫いで補修する場合、どのような縫い方が適しているか、その理由をあわせて書きなさい。

(5) Cの制服の手入れについて、次の問いに答えなさい。

- ① 日常的な手入れ（学校から家に帰ったら）は、どのようにするとよいか書きなさい。
- ② 衣替えの時期、洗濯をしてから保管する場合、どのようにするとよいですか。洗濯の方法（2通り）と、保管する際に注意することを書きなさい。